

スチューデント・アクション・プロジェクト

「甲南大学における持続可能な循環型キャンパスの実現を目指して」

- 甲南人の環境意識の向上を通じて -

第 6 回 環境啓発シンポジウム

持続可能な循環型社会の創造

- 甲南人の環境意識の向上を通じて -

2006 年 12 月 6 日（水）13:00 14:30

甲南大学 10 号館 1021 教室

主 催

甲南大学環境総合研究所

甲南大学文学部人間科学科専門科目「哲学思想基礎論」

甲南大学文学部人間科学科 谷口ゼミナール

共 催

省エネルギー・省資源推進委員会

協 力

甲南大学学生部・財務部・生活協同組合・関西明装・神戸エイコーサービス・対馬造園店

プ ロ グ ラ ム

- 13:00 挨拶 谷口 文章（甲南大学環境総合研究所 所長）
- 13:10 環境啓発シンポジウム（シンポジスト：1件発表時間6分）
コーディネーター：谷口 文章（文学部 教授）
- シンポジスト：植村 亮介（学生部学生課長）
「甲南大学における敷地内全面禁煙について」
- 内山 浩志（財務部）
「甲南大学のエネルギーについて」
- 松原 勤【関西明装（株）】（清掃業者・守衛室 [本校舎]）
「学生のモラルについて」
- 吉浦 精一【（株）神戸エイコーサービス】（清掃業者・守衛室 [7号館]）
「大学におけるゴミの発生と廃棄物の処理」
- 戸田 健【（株）対馬造園店】（造園業者）
「学内に植生している珍しい樹木」
- 長谷川 真一郎（甲南大学生生活協同組合理事会室 副室長）
「生協各店舗でのリサイクル活動について」
- 山下 尚子、御舩 慶美、山口 佳奈、渡部 仁美（哲学思想基礎論 受講生）
「甲南大学の緑と甲南生のマナーについて」
- 山本 朋愛、八木 朋美（文学部人間科学科 谷口ゼミナール）
「甲南大学における持続可能な循環型キャンパスの実現を目指して
- 甲南人の環境意識の向上を通じて - 」
- 14:10 ディスカッション（15分）
- 14:25 総括（5分） 谷口 文章
- 14:30 閉会

環境啓発シンポジウム・実行委員会組織

実行委員長：谷口 文章 教授

谷口ゼミ・学生部・財務部・大学生協・関西明装・神戸エイコーサービス・対馬造園店・哲学思想基礎論
受講生

挨拶

環境啓発シンポジウムの開催にあたって

谷口 文章 【甲南大学環境総合研究所 所長】

今回の開催をもって、環境啓発シンポジウムも6回目を迎えることになりました。このシンポジウムはスチューデント・アクション・プロジェクトの一環で催されてきており、学生参加型で進めてきています。谷口ゼミナールではスチューデント・アクション・プロジェクト企画として、2001年度から甲南大学内キャンパスでもゴミの分別回収を開始し、「甲南大学における循環型コミュニティの創造」をテーマにした活動を展開してきました。これらの活動は、キャンパス外でも環境教育野外施設（広野グランド）における有機農法による米・野菜づくり、甲南三法人教育プロジェクトとして展開された「環境教育における18年間一貫教育」（甲南幼稚園・小学校、甲南中・高等学校、甲南女子中・高等学校、甲南大学）の環境教育ボランティア活動などに発展してきました。2002年度には、これらの活動に加え、「パートナーシップ」の構築をテーマとした取り組みが中心に行なわれ、2003年度には、「持続可能な循環型コミュニティの創造を推進しました。さらに2004年度には、「環境創造活動」の推進と「モデルプログラム・教材」の作成を中心とした活動を行ない、2005年度には「環境啓発活動」と「環境意識の向上」をテーマに活動を行なってきました。この間、環境教育による「高大連携」が、神戸市立六甲アイランド高校や兵庫県立尼崎北高校において実施されてきています。近年では特に、定期的な学術国際会議の開催とともに、TV会議システムを使用した「国際環境教育ネットワーク」を、タイ・プラナコーン＝ラジャバト大学環境教育センターや中国・北京大学、カナダ・ヴィクトリア大学などと構築してきています。さらに、学生間での意見交流・学生国際会議などを行ない、若い世代の環境教育ネットワークを促進しています。これらのグローバル（グローバルな視点とローカルな活動をあわせ持つ）諸活動を通して、学生主体による次世代のための持続可能な循環型社会の創造を目指して具体的な行動に移せるよう、甲南人の環境意識の向上の発展に努めて活動しています。

環境啓発シンポジウムでは、これまでに以下のようなテーマで実施してきました。

- 「循環型コミュニティの創造とパートナーシップ - 甲南大学におけるゴミの4分別化をめぐる -
(第一回、2001年度)」
- 「循環型コミュニティの創造 - ゴミの4分別・緑化・施設の利用マナーをめぐる -
(第二回、2002年度)」
- 「持続可能な循環型コミュニティの創造 - 甲南大学における環境とマナーをめぐる -
(第三回、2003年度)」
- 「環境創造活動と環境教育の推進 - 省エネルギー・省資源の推進とともに物を大切にすること -
(第四回、2004年度)」
- 「持続可能な循環型社会の創造 - 省エネルギー・学生マナー・環境創造活動の視点から -
(第五回、2005年度)」

当初、大学のそれぞれの重要な役割を担っているセクター（学生部・財務部管財課・大学生生活協同組合・清掃業者・守衛室・対馬造園）間の学内環境の向上のためのパートナーシップを目指してはじまったこの試みも、現在では大学の主体である学生一人ひとりの環境意識の向上のための催しとなってきています。それとともに、学内の環境力のアップのためには、具体的な環境マネジメントの方策ももともとめられてきています。現在、神戸環境マネジメントシステム（KEMS）の取得にも努力しています。本企画では、大学生生活の主役である学生の皆さんが改めて自分のキャンパスを見渡して、大学を普段から支えてくれている職員さんの思いに改めて「気づく」ことからはじまって、次の段階には自ら環境のために行動できるように繋（つな）げていくことが期待されています。

今回の開催にあたりましては、大学学生部・財務部管財課・大学生生活協同組合・清掃業者・守衛室・対馬造園など諸機関の皆様にご協力と御参加を賜りました。心より御礼を申し上げます。

甲南大学における敷地内全面禁煙について

植村亮介【学生部学生課長】

甲南大学 “No Smoking Campus” 宣言



甲南大学は平成 18 年(2006 年)4 月 1 日より「大学敷地内全面禁煙」を実施しています。大学は多くの人が集まる公共の場であるとともに、未成年者の喫煙の慣習化を防止することの意義を認識し、禁煙にご協力下さい。

“No Smoking Campus” 宣言

甲南大学 “No Smoking Campus” に向けて

以下の諸点を踏まえ、甲南大学は“ No Smoking Campus ” 宣言を行います。その一環として、昨年の平成 17 年度(2005 年度)より分煙の徹底と 1 ヶ月間の灰皿撤去試行などを実施し、いよいよこの平成 18 年(2006)年 4 月 1 日より「敷地内全面禁煙」に踏み切りました。かつて甲南大学は建物内禁煙・分煙に取り組む、当初は散々の結果でしたが、5 年の歳月を費やしてようやく「建物内禁煙は当然」というカルチャーが形成されました。時間がかかるかもしれませんが、この先例を念頭に置き、忍耐強く大学のポリシーを推進していきます。どうかその趣旨をご理解のうえ、皆さまのご協力をお願い致します。

敷地内全面禁煙に向けて

皆さんの中には「分煙で十分ではないか?」、「敷地内全面禁煙では逆にタバコのポイ捨てが大学の内外で増加するのでは?」、「短大・医学系大学はよいとして、四年制大学で敷地内全面禁煙を行っている大学まだマイナー。まずは分煙の徹底からスタートすべき」との意見をお持ちの方も多いかと思われるます。また「喫煙は精神安定剤として必要」、「喫煙によりむしろ勉強が進む」、「とにかく吸わせろ、我慢できない!」といった声もよく聞かれます。しかし、そのように考える前に、いま一度大学内における禁煙の意味を再確認しておく必要があるのではないのでしょうか。

健康増進法による受動喫煙の防止

皆さんは平成 15 年(2003 年)5 月に施行された「健康増進法」をご存知でしょうか?その第 5 章の「第 2 節 受動喫煙の防止」第 25 条において、飲食店や劇場、その他公共施設などの人が多く集まる施設・場において、煙害から非喫煙者を守る努力義務が施設管理者に課されました。なお、この義務は一般に「受動喫煙防止努力義務」と表現されますが、「受動喫煙(室内またはこれに準じる環境において、喫煙者が排出するタバコの煙の吸引を余儀なくされること)」という言葉がキーワードとして定着しつつあることに注意して下さい。JR などが盛んに構内やプラットフォームでの禁煙運動を行っている理由は、実はこの法律を背景としているのです。実際、平成 17 年(2005 年)12 月のタクシー内喫煙に関する訴訟事件のように、受動喫煙防止の努力義務を怠ることは、訴訟の材料になりかねなくなりました。

兵庫県のガイドライン

この健康増進法第 25 条の施行を背景として、平成 16 年(2004 年)3 月に兵庫県から「受動喫煙防止対策指針」という表題のガイドラインが出されました。その中で、幼稚園・保育所や小中高等学校はもちろんのこと、大学などの高等教育機関を含む全ての教育機関は、受動喫煙による健康被害を「ゼロ」にするため、平成 17 年度(2005 年度)から「敷地内完全禁煙」を実施することが望ましい旨のガイド

ラインが示されています。なお、このガイドラインに沿って、2005年9月より、神戸市内の全ての幼稚園・保育園・小中高等学校は「敷地内完全禁煙」に移行しています。残るは短大等を含む大学のみとなりました。

高校までならともかく、大学がなぜとの疑問があるかもしれませんが、大学の1・2年次生の多くは未成年者であること、そしてこうした未成年者が喫煙を始めるのが大学1年生の頃との考慮があることに留意したいものです。このように兵庫県のガイドラインは、「喫煙の慣習化を防ぐ」努力を大学に求めていると言ってよいでしょう。

岡本地区は「ポイ捨て防止重点区域」「喫煙制限区域」違反者は2万円以下の罰金！

神戸市では平成9年（1997年）6月に「タバコ吸殻・空き缶等のポイ捨て禁止条例」が施行されました。この条例は市内全域の公共の場所におけるタバコポイ捨て、空き缶等（ペットボトル、ガムを含む）のポイ捨て、つばの吐き捨てを禁じています。

一方、岡本地区は神戸市の「ポイ捨て防止重点区域」に指定されており、タバコポイ捨てや空き缶等のポイ捨て、つばの吐き捨て等を行う者に対し、2万円以下の罰金が科されることになっています。また、同地区は「喫煙制限区域」にも指定されており、灰皿が設置された場所以外での喫煙は禁止されています。条例による罰則ですのであまり効果がないとの意見もありますが、電車を降りた途端の歩行喫煙は、実は法律違反行為であることはあまり周知されていません。

また、街の住民の皆さまが「きれいな岡本地区」を願っていること、そして条例はその意思表示であることを見逃すことはできません。甲南大学はその岡本地区の住民であるという意識を持つことが重要ではないでしょうか。

肺がんのリスク

日本における死亡原因のトップはがんです。実際、平成16年（2004年）において、わが国の死亡者総数の31%に相当する32万人が、がんによってなくなっています。そしてがんの部位別死亡ランキングは、トップが肺等の気管系のがん、それに続いて胃がん、大腸がんとなっています。

喫煙が肺がんを引き起こす大きなリスクを伴っていることは常識となりました。また、幾度となく喫煙に対するウォーニング・メッセージが医学界から発せられてきたことも周知の事実でしょう。実はその背景にはこうした日本の現状があるのです。

喫煙は病気

しかも平成17年（2005年）10月、日本循環器学会をはじめとする9学会の合同研究班により、喫煙は「ニコチン依存症と関連疾患からなる喫煙病」との判断が示されました。専門家の間において、喫煙は「病気」であり、「タバコを吸わない社会習慣の定着」が大きな目標と考えられるに到っているのです。

このように、依然一部の抵抗が見られるものの、「喫煙」が一種の病気であるとの認識が次第に浸透しつつあります。こうした社会情勢を背景として、2006年4月から、禁煙指導を健康保険で受診可能になりました。ただし、ニコチンパッチ等の投薬は全額自己負担です。

生活習慣病の予防

一方、厚生労働省では、糖尿病・脳卒中・心臓病・高脂血症・高血圧・肥満といった「生活習慣病（毎日のよくない生活習慣の積み重ねによってひきおこされる病気。以前は成人病と呼ばれていた）」を減らすための対策の一環として、成人喫煙率に数値目標を設定することを議論しています。禁煙抜きでの生活習慣病撲滅対策には限界があるとの認識からでした。実際、20-29歳成人の喫煙率は思いのほか高く、男性は53.3%、女性は17.4%となっています（平成14年国民栄養調査の結果）。こうした日本の現状を少しでも改善し、生活習慣病にかかるリスクを早めに摘み取ることが必要と考えられているのです。

健康増進の責務

このように喫煙は麻薬のようなものであり、健康上は百害あって一利なしといったところかと思われます。大学としても学生や教職員の健康増進を推進することは責務であり、またその努力をすべき時代が来ているのです。

大学のポリシーとしての「敷地内全面禁煙」

「大学は公共の場」、「未成年者による喫煙の慣習化防止」

すでに法律的な話で説明したように、「大学は多くの人が集まる公共の場」であることを認識することが重要です。こうした公共の場において喫煙を慎むことは社会常識となりつつあり、大学もこうした流れを真剣に受け止める必要があると考えます。

第二に、大学には学生の半分近くを構成する未成年者がいること、そしてこうした学生による「喫煙の慣習化を防止する」ことの重要性を指摘しました。繰り返しになりますが、未成年者による喫煙の慣習化を防ぐ努力が大学に求められているのです。

皆が快適に過ごせる大学を創ろう

一方、喫煙者が隣にいただけで不快感を持つ人が少なくない現実を忘れてはなりません。例えば子供を抱えた家庭では「タバコの煙・臭い」はほぼタブー、そうしたお店には入らないようにしている方も多いとされています。喫煙者から発する臭いそのものが受動喫煙の源泉となりうるのです。

大学でも事情は同じであり、タバコの煙はもちろんのこと、タバコの臭いのする場所は敬遠されがちです。そうした場所は喫煙者の溜まり場と化し、タバコの煙や臭いの嫌いな人たちはそこから排除されてしまうでしょう。また教室の隣の席にタバコの臭いをプンプンさせている人が座ってきたら、不快な授業時間を過ごすこととなります。敷地内全面禁煙により、誰もが快適に過ごせる大学を創りたいものです。

甲南大生のモラルと徳育

甲南学園創立者平生鈆三郎先生は、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して、各人の天賦の特性を伸張させる」と甲南の建学の精神を高らかにうたっています。しかし、この精神に反して、大学内外での無手勝な喫煙が闊歩しているのが現状です。

特に問題なのが歩行喫煙です。電車を降りた途端、我慢できなくなってくわえタバコ、しかも友達と大きな声で喋りながらの歩行喫煙を見たことがある人は少なくないはずです。駅から大学までの途中には幼稚園があることは誰でも知っているはずなのに、「子供の顔にヤケドさせたら」との考えが及ばないのでしょうか？

また、学内の幾つかの場所に「禁煙」の看板が掲げられているにもかかわらず、平気で喫煙をしている学生をよく見ます。こうした明らかなルール違反を放置しておくことは、これから社会に旅立つ学生を教育する場としてはあまり好ましいこととは考えられません。大学としては、こうした現状を改め、建学の精神を推し進める一環として大学敷地内全面禁煙を捉えています。

他大学の取り組み

皆さんもご存知のように、岡本地区には甲南大学に加えて甲南女子大学、神戸薬科大学の三つの大学が立地しています。そして甲南女子大学および神戸薬科大学は平成17年(2005年)4月より「敷地内全面禁煙」を開始(もしくは強化)しました。同じ岡本地区に立地している大学間におけるスタンスの差は、地域に根ざす甲南大学の評価、ひいては甲南大生の評価に直結する問題なのです。

また、四年制大学でも、関西国際大学が敷地内全面禁煙を既に開始しています。「四年制大学はまだ実施していない」という口実は、次第に過去のものとなりつつあることを認識して下さい。

いずれにしても「敷地内全面禁煙」は時代のトレンドとなりつつあるように見受けられ、こうした動きにいち早く取り組むことが肝要です。これから社会に旅立つ学生の皆さんにとって、いまからその準備を行っておくことが重要なのではないのでしょうか。

【 講義発表資料 】

2006年12月6日

甲南学園 管財部（内山浩志）

甲南学園 管財部

【 目次 】

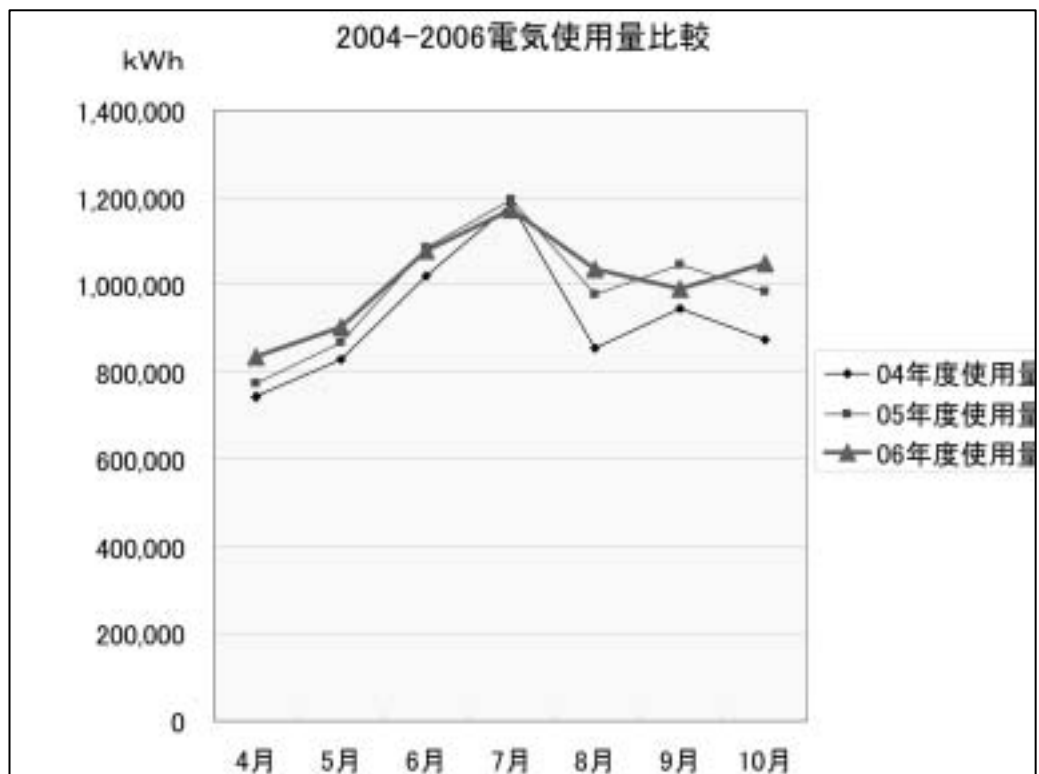
- エネルギー利用実態報告
- 第2種エネルギー管理指定工場に指定されました
- 管財部からのお願い
トイレトペーパーの使用について
指定ゴミ袋制度導入('07. 4月から)

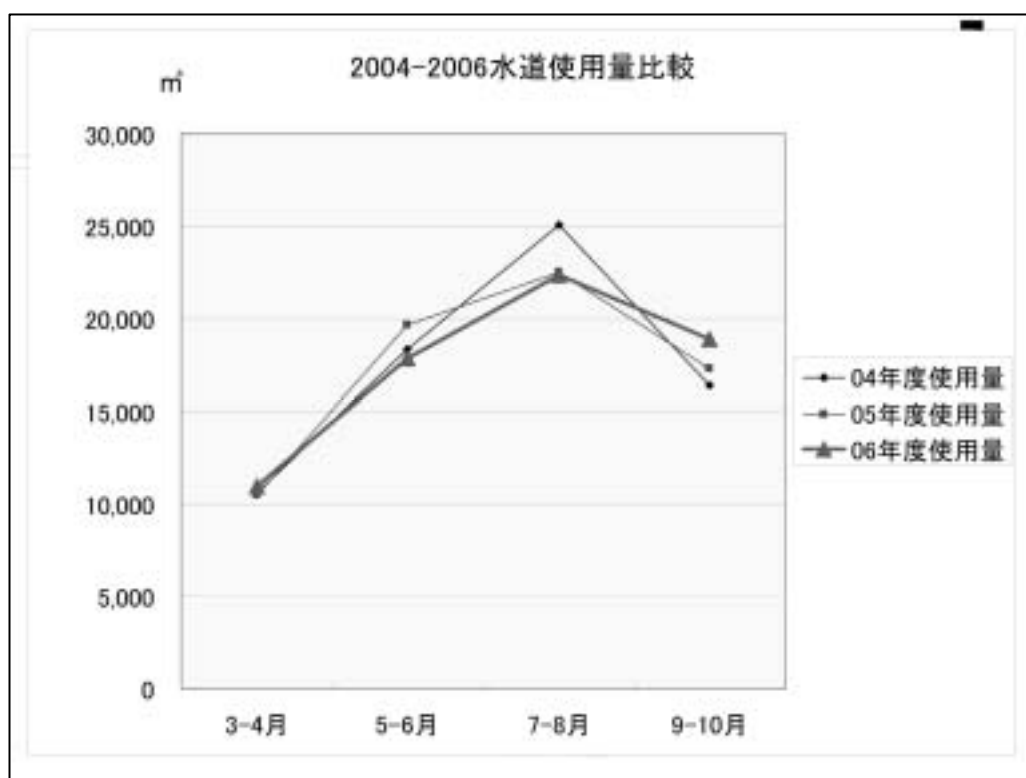
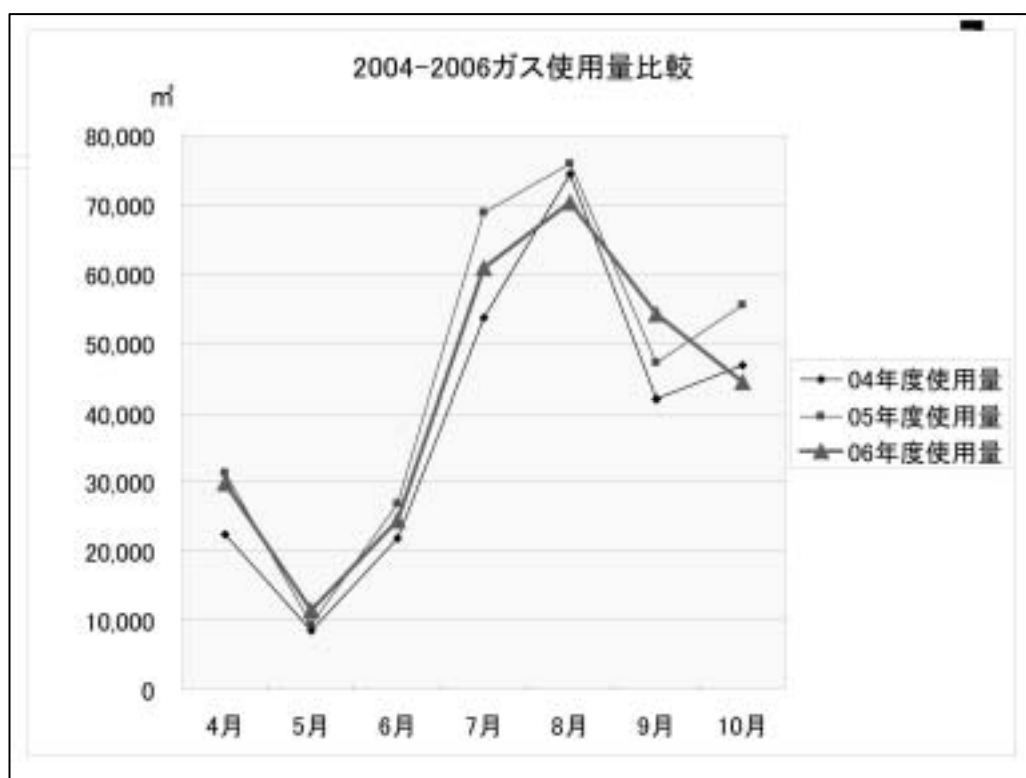
甲南学園 管財部

【エネルギー利用実態】

- 省エネルギーのため、管財部では以下の取り組みを行ってきました。
 - ・クールビズ・ウォームビズ(事務室)
 - ・節水弁設置
 - ・乙姫(トイレ用擬音装置)設置
 - ・大便器自動洗浄器設置
- 機器の導入で一定の効果は期待できますが、関係者全てが省エネに取り組み、無駄なエネルギーの消費を減らすことが大切です。

平高学園 管財部





【光熱水費の比較】

	2004年度	2005年度	差額
電気	¥ 184,670,531	¥ 184,482,085	△ ¥ 188,466
ガス	¥ 31,655,433	¥ 33,620,904	¥ 1,965,471 (※単価増)
水道	¥ 50,412,211	¥ 49,944,795	△ ¥ 467,416

平南学園 資料部

【第2種エネルギー管理指定工場】

(近畿経済産業局・平成18年7月19日付け通知)

- 燃料及びこれを熱源とする熱の年度の使用量が年間原油換算1500kL、又は電気の年度の使用量が600万kWh以上の工場を第二種エネルギー管理指定工場という。
(ECCJ(省エネルギーセンター)用語集より)
- 2005年度実績は原油換算計2,379.5kL(熱量及び熱492.3kL、電気733.7万kWh=1,887.2kL(原油換算))でした。
- エネルギー管理員を選任し、年度ごとに報告書を提出することが義務付けられます。

平南学園 資料部

【管財部からのお願い①】

- トイレトペーパーをムダ使いしていませんか？
 - ・必要な分だけ引き出して使いましょう。
 - ・ティッシュ代わりに使用していませんか？
 - ・誰でも気持ちよく利用できるトイレにしましょう。

中興学園 管財部

【管財部からのお願い②】

- 事業系ごみの回収に指定袋制度が導入されます。
- 大学で集められたごみは、集積所で分別確認され、契約業者によって市内の各クリーンセンターに運搬されています。
- ゴミ箱に記載されている分別を徹底してください。
- できるだけリサイクルに回しましょう。

中興学園 管財部

学生のモラルについて

松原 勤【関西明装(株)】

<巡回時に気付くこと>

- 甲友会館につき特に使用後、未消灯・未施錠が目立つ
- 5号館ゼミ室や各講義室において、飲食物のゴミが目立つ
 - ペットボトル・空き弁当箱・お菓子の空箱
 - タバコの吸殻が散乱している。(下記地図参照)

<窓口業務中に感じる事>

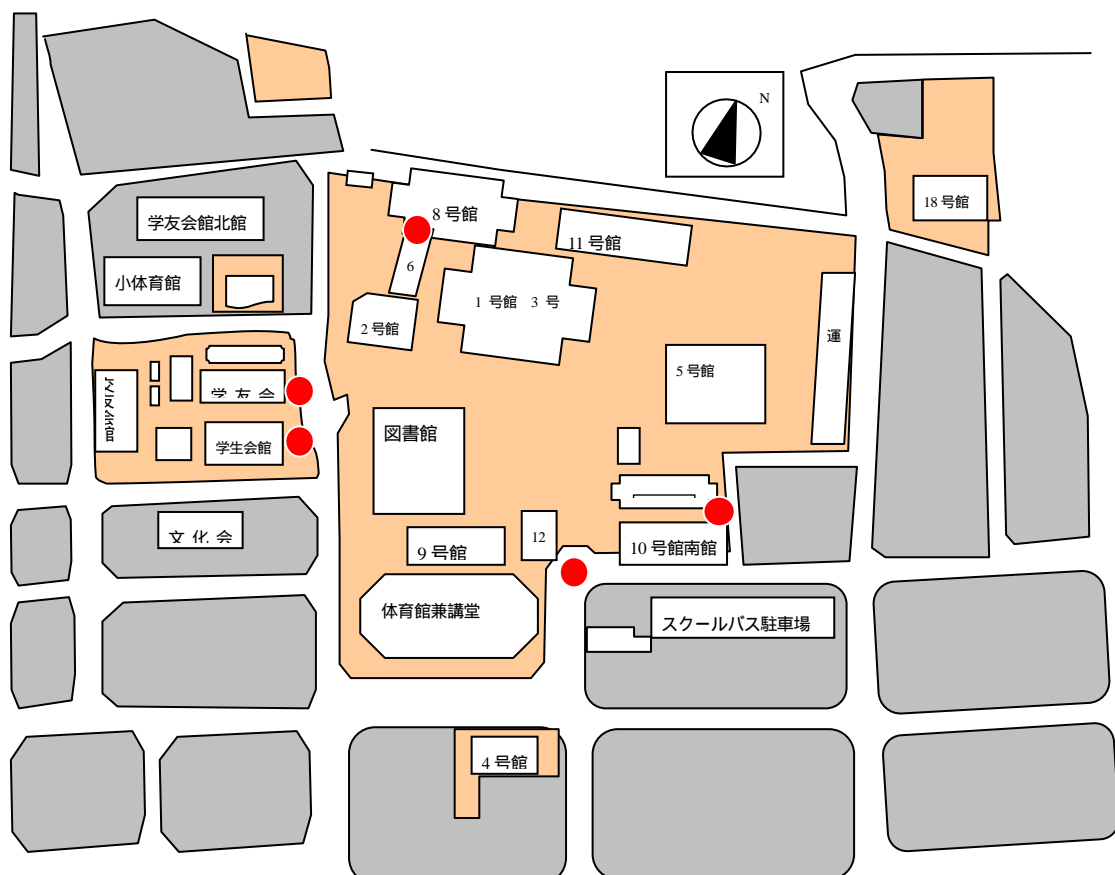
- 3号館講義室につき、使用届けを出さずに放課後使用している団体が目立つ
- 5号館のゼミ室利用について学習の目的以外(会議等)で使用している
 - 週に1回程度、他ゼミ室利用者から隣がうるさい等のクレームがある

<コメント>

以上のことについては、全て共通点がある。それは、自分の立場になって考えるという社会生活を営む上での常識の欠如である。たとえば、タバコの吸殻が自分の家に散乱していても平気なのか?。また、自分の学校がそのような状態で、恥ずかしくないのか? 考えて行動して頂きたい。みんながやっているから、自分もいいではなく、自分から襟を正してみんなに広げていってほしい。

以上

煙草の吸殻が異常に多い箇所



大学におけるゴミの発生と廃棄物の処理

吉浦 精一【エイコーサービス】

甲南大学から発生するゴミの種類

燃えるゴミ (週3回業者へ)	生ゴミ、紙くず、小さな木片 生活系プラスチック容器(弁当ガラ、ポリ袋、菓子袋) 繊維(ボロ切れ、古着)
燃えないゴミ (月1回業者へ)	ガラス、陶器類 金属類(鍋、ヤカン等) 廃プラスチック(フロッピー、CD等) 小型家電品 蛍光灯、乾電池
粗大ゴミ (品数によって業者へ)	机、椅子、棚、自転車 大型事務機、家電製品、備品、パソコン
資源ゴミ (品数によって業者へ)	ビン、ペットボトル、カン
実験ゴミ (月2回業者へ)	ダンボール、新聞、雑誌 主に理工学部の薬品実験ゴミ (特別に月2回収作業を行っている)

以上のゴミが発生しているが今回は、 の項目についての回収、処理について報告したいと思います。

燃えないゴミ	
金属類	当校では粗大ゴミの金属と一緒に処理
ガラス、陶器類	ビール瓶等はリサイクル可能であるが発生が少なく 燃えないゴミとして処理している
蛍光灯	割れていない物は保管して特別に業者に処分

これらは回収された後、集積所で仕分けされ原則として月1回専門業者へ処理をお願いしている

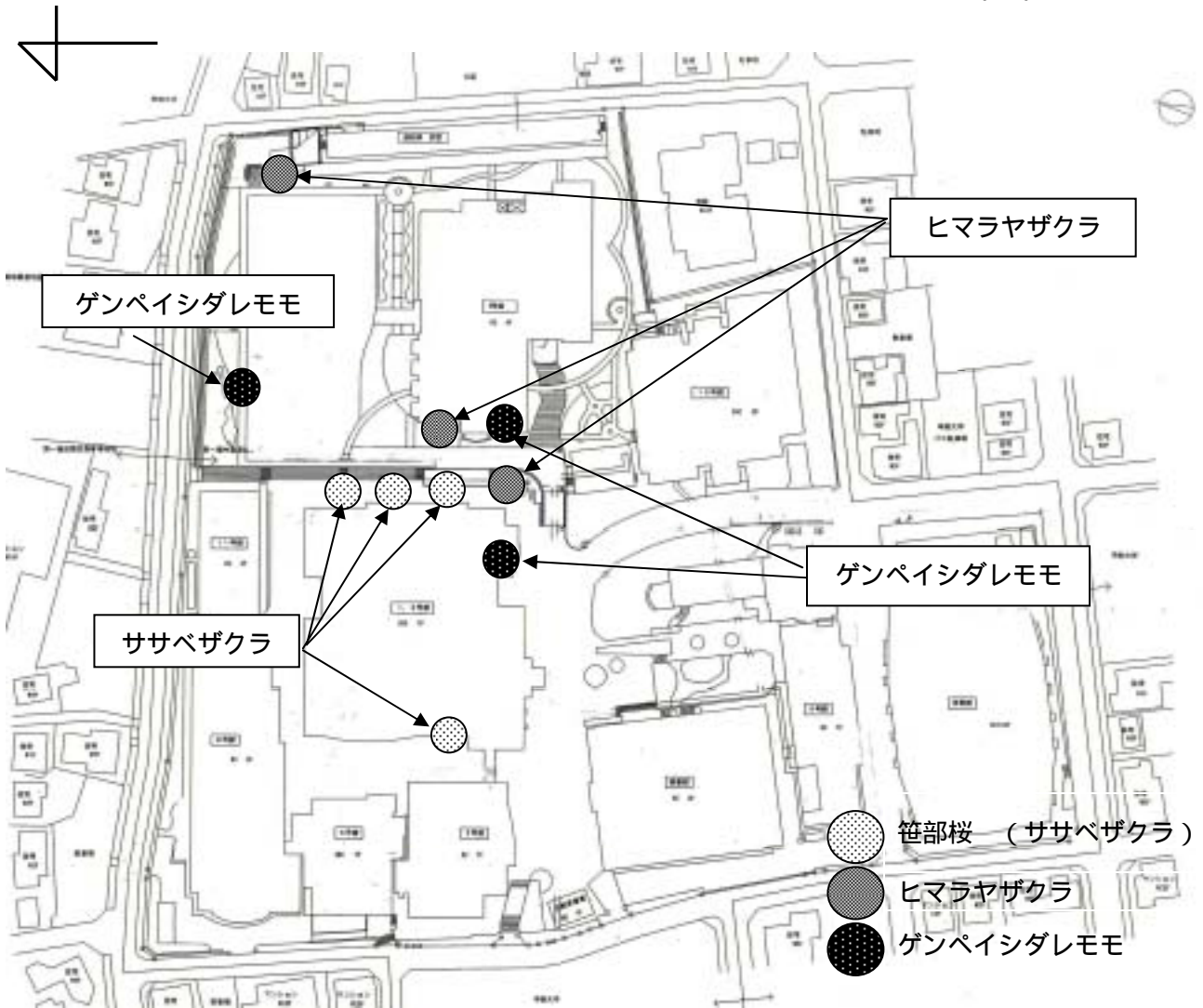
粗大ゴミ	特に当校では古くなった机、椅子、大型事務機、家電製品、パソコン 等が多く、廃棄対象である
家電製品(テレビ、冷蔵庫等)	最近では回収費用が発生する為、各学部事務所より 管財へ連絡の上、許可を得て回収し、一時集積 所保管の上業者に連絡し処分してもらう。
パソコン等	研究ソフトや個人情報流出等の問題もあり、特に管財への連絡の上、 特定の場所に一時保管し、専用のパソコン処理会社へ (現在パソコン1台あたり¥3,000程の費用がかかる)
机、椅子等 その他	木片と金属部分に仕分けして、分解後に業者へ 事務機械、応接セット等できるだけ分解して保管し、品数により業者へ

環境問題を考える時使えるものは使う、リサイクルできるものはリサイクルして限りある資源を大切にしたいものです。

我々業者としても一層の多様化に対し出来るだけ分類して協力していきたいと思っております。

学内に植生している珍しい樹木

戸田 健【(株)対馬造園店】



笹部桜 (ササベザクラ)

(カスミザクラ+オオシマザクラ)の交配種



水上勉氏の小説「櫻守」のモデル笹部新太郎氏の名前をとってササベザクラと名付けられました。

障害を桜に捧げた故、笹部新太郎氏の邸宅後が現岡本南公園です。

この大学に植わっているササベザクラは震災後1、3号館が竣工した平成9年3月に岡本桜守会からいただいて1号館、2号館、3号館に植栽しました。

最近では学習院大学対抗戦50周年記念の記念樹として運動場北東側に植樹しました。

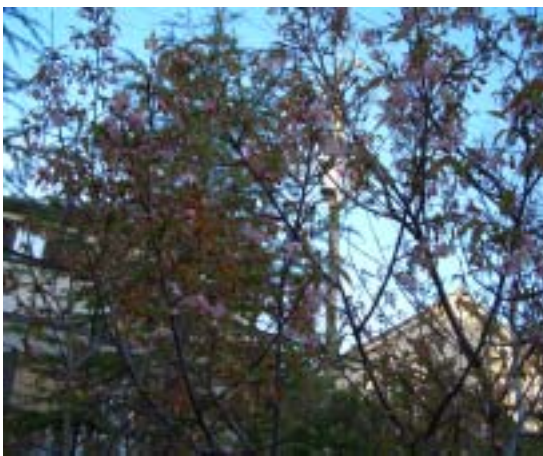
源平枝垂れ桃（ゲンベイシダレモモ）

同じ木に白と赤の花が咲くのを源氏の旗が白平家の旗が赤だったことに由来しています。

それだけでなく同じ一つの花が紅白の花びらで出来ているものもあります。

< 植栽先 >

- 3号館玄関東
- 5号館スロープ北角
- 運動場北 ビオトープ
- 17号館玄関北



ヒマラヤザクラ

日本の桜の原種と言われています。

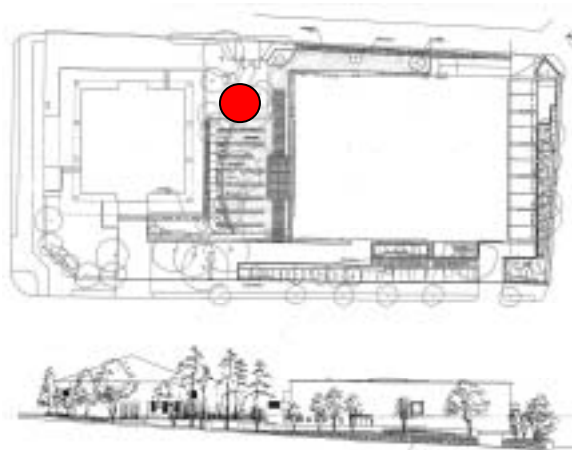
ネパール地方からブータン、ミャンマー、中国の雲南地方まで分布する野生種の一つです。日本では11月下旬から12月下旬にかけて咲きます。

大気汚染の原因となるNO₂（窒素化合物）の吸収力がソメイヨシノの3～5倍との研究結果もあり環境浄化木として注目されています。

< 植樹先 >

特高北、5号館西側、運動場東、藤棚横、平生記念館、平生セミナーハウス

カンツバキ(平生ツバキ)



このカンツバキは「原色牧野植物大図鑑」で有名な理学博士牧野富太郎先生が学名を付けられるきっかけとなった原木です。昭和の初めの頃、牧野先生がここ平生邸(平生記念館)を訪れた際、このカンツバキに目をとめられまだ学名がついていないことからその時庭を案内されていた木村(旧姓平生)富士さんの名をとり *Camellia sasanqua* cv. Fujikoana と命名されました。

生協各店舗でのリサイクル活動について

長谷川真一郎【甲南大学生生活協同組合】

もうすでにご周知の通り、生協の各店舗で販売しているお弁当についてリサイクル容器を使用しています。今回のシンポジウムでは、回収後のリサイクル方法と回収状況について報告します。今後とも回収率の向上のために、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

・P&P リサイクル弁当容器について

生協で作る内製弁当について、6年前よりこのリサイクル容器を使用しています。この容器の特徴として、加工のし易さと100%のマテリアルリサイクルが実現出来ることが挙げられます。回収された容器は製造メーカーに送られ、再生原料ペレットに戻された後に再度リサイクル容器に加工されます。

(別紙資料参照)

・ホッかるについて

この紙製リサイクル容器のメリットは、回収ルートが限定されないことです。ポリ製の容器では、回収後製造メーカーまで送る必要がありましたが、紙製の容器であれば地元の古紙回収業者に渡すことができます。環境への総負荷を考えると、運搬に使う車のエネルギー量、排気ガスの削減につながり、より環境負荷の少ないリサイクル容器と言えます。

(別紙資料参照)

・食堂の割りばしについて

食堂で利用された割り箸は、食器と一緒に資源ゴミとして回収しています。回収された割り箸は王子製紙(神崎工場)にてパルプとして再利用されます。

王子製紙では、コピー用紙・上質紙・印刷紙・ポスター・ティッシュなどに割り箸が活用されています。割り箸だけで紙を作るわけではありませんが、割り箸だけで紙製品を作ったと仮定した場合の換算値はおおよそ下記ようになります。

割り箸 10kg(約2,500膳) ボックスティッシュ 15箱

割り箸 3膳(6本) はがき 1枚、又は、A4サイズのコピー用紙 1枚

“ホッかる”

concept
商品コンセプト

テイクアウト用の紙食器を
リサイクル可能にした、
新しい時代・循環型社会への対応商品。

new idea
新しい発想

- 使用後にリサイクル可能なテイクアウト用の紙食器
- 外紙（再生紙）と内紙（機能紙）の二重構造
- 食べ終わったら内紙だけをはがしてゴミ箱に（焼却しても無害）
- 外紙は100%リサイクル可能（ゴミ減量化）



basic performance
基本機能



1 ユーザーが自分で気軽にリサイクル

“ホッかる”は、自宅・オフィスで一般廃棄として出せば、そのまま自治体側の処理経路（約6%を再資源化）により、リサイクルされます。

2. ロイヤル・カスタマーの獲得

“ホッかる”を使用することで、環境問題に敏感な顧客の獲得に応えることができました。また、分別回収を呼びかけることで、顧客との関係が生まれます。

3. 企業（店舗）のイメージアップ

“ホッかる”は、企業のイメージアップ・信頼性につながり、ゴミ減量化に顧客とともに貢献できるだけでなく、高いPRインディ効果も期待できます。



●まちでは・・・

今までの、プラスチックの容器でも、おしゃべりに使うことができます。お洒落な仕事場のゴミ箱がふさがることもなくなります。

●イベントでは・・・

もともとは防災まつりから生まれた“ホッかる”。イベント運営にも環境問題、ゴミ減量化の視点が求められています。



eco-lifestyle
“ホッかる”スタイル

●学内・社内食堂では・・・
学校や企業でも、環境に配慮しているかどうか、その学校・企業のイメージを左右する時代になっています。



はがして再生P&P リサイクルの ミンミリ・リパック

かんたん きれいに リサイクル

P&Pリサイクルとは、使用済み容器ミンミリ・リパックを回収し、同じ容器として再生・再資源化するシステムです。

交通、行先、気候にかかわらず、みなさまのご理解をいただき、P&Pリサイクルシステムへのご協力をお願いします。

ミンミリ・リパックを製造

再生シートから、再生容器のミンミリ・リパックを製造します
—再生センター—

再生シート製造

リサイクル原料からP&Pシートを再生します

①PPフィルム（シート原料）

②PPフィルム（シート原料）

③PPフィルム（シート原料）

④PPフィルム（シート原料）

⑤PPフィルム（シート原料）

⑥PPフィルム（シート原料）

⑦PPフィルム（シート原料）

⑧PPフィルム（シート原料）

⑨PPフィルム（シート原料）

⑩PPフィルム（シート原料）

⑪PPフィルム（シート原料）

⑫PPフィルム（シート原料）

⑬PPフィルム（シート原料）

⑭PPフィルム（シート原料）

⑮PPフィルム（シート原料）

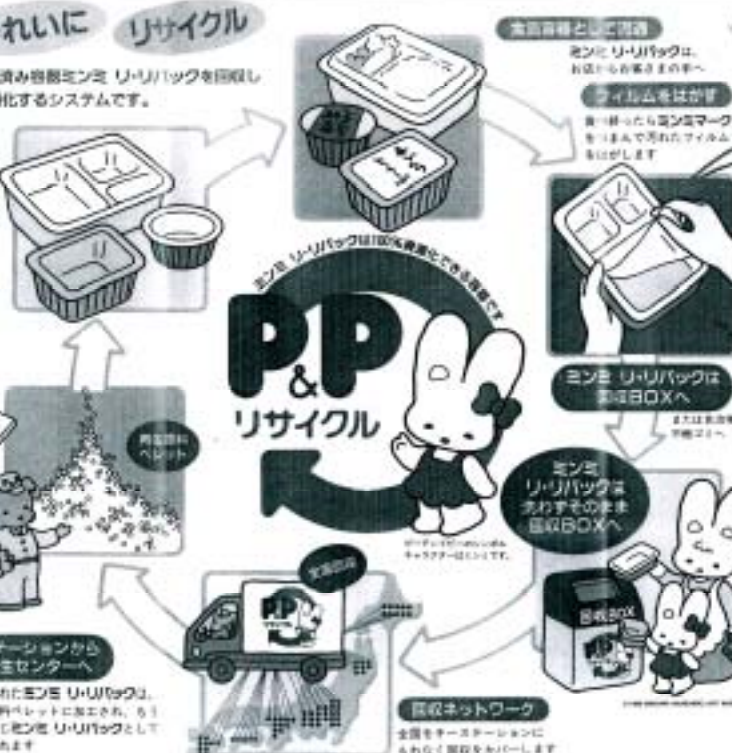
⑯PPフィルム（シート原料）

⑰PPフィルム（シート原料）

⑱PPフィルム（シート原料）

⑲PPフィルム（シート原料）

⑳PPフィルム（シート原料）



はがして再生 P&P リサイクル

はがして再生 P&P リサイクル

はがして再生 P&P リサイクル

はがして再生 P&P リサイクル

P&Pリサイクル弁当容器



食べ終わったら角のつまみを折り
内側のフィルムをゆっくりはがします。



本体はリサイクルBOX
にお入れください。



フィルムとフタは
ゴミ箱にお入れください。



01.7.27 産経(朝)

内側にプラスチックシート リサイクル率92%の紙箱

残飯や汚れ 簡単に分別



紙箱の内側「汚れを防止するプラスチックシート」をはり付けた。環境に優しい「リサイクルボックス」を開発した。東大阪市、上田製作社長の秀英(秀英)が、紙製食品容器の秀英(秀英)が開発した。シートは、はがしやすいうえに加工を省き、残飯や汚れを簡単に分別できるのが特徴。今年四月からは京福田大学理工学部の生協で採用されるなど、各地で注目が集まっている。

東大関 秀英が開発

大学生協でも採用

飲食店やイベントなど、リサイクルに、上田社長は「これを利用する使い捨て紙箱、十年前から製造。現在の二重構造の紙箱は、約1センチ厚のプラスチックシートを、リサイクルされた紙に二重構造に完成し、両面でプラスチックシートをはり付けた。特殊な構造で、最大の利点は、紙箱を「リサイクルの機器を備えたボウラン」で参加して、利用者にリサイクルの徹底を促す。また、京福田大学の生協で採用された。また、京福田大学の生協で採用された。

「リサイクルの機器を備えたボウラン」で参加して、利用者にリサイクルの徹底を促す。また、京福田大学の生協で採用された。また、京福田大学の生協で採用された。

「リサイクルの機器を備えたボウラン」で参加して、利用者にリサイクルの徹底を促す。また、京福田大学の生協で採用された。また、京福田大学の生協で採用された。

大学出荷・回収量調査H17.3～18.2

(単位:kg)

NO	大学名	出荷・回収	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計	回収率	
1	愛知教育大学	出荷量		113.64	12.30	12.30	12.30		12.00	86.00	38.10	41.40	79.24	86.66	493.94		
		回収量		18.96		49.51	27.67					21.68	23.57	12.94		154.33	31.24%
2	秋田大学	出荷量	12.84	51.36	38.52	51.36	38.52	38.52	25.70	77.00			38.50		25.68	398.00	
		回収量														0.00	0.00%
3	麻布大学	出荷量	12.84	25.14	42.48	29.64	12.84			12.30	30.00	32.80		23.92	234.80		
		回収量				29.10		7.57			33.45			16.91		50.36	21.45%
4	茨城大学	出荷量							12.30	23.90	12.30		16.80	12.30	106.70		
		回収量				6.75					6.33					20.65	19.35%
5	茨城キリスト教大学	出荷量	15.84	24.60	12.30	24.60			52.30		24.60	12.30	12.30		178.84		
		回収量									11.24					11.24	6.26%
6	岩手大学	出荷量		77.04	154.08		38.52		25.80	103.00	64.20	51.40		25.68	591.20		
		回収量														0.00	0.00%
7	愛媛大学	出荷量	171.24	336.52	185.05	359.60	358.52	214.20	129.20	322.40	549.20	334.20	315.66	224.72	3500.51		
		回収量		442.56		60.46	56.63	82.91	41.42			109.23	69.23	72.89		935.33	26.72%
8	岡山大学	出荷量	115.87	316.28	205.98	200.98	155.84	186.89	58.80	266.20	232.30	283.20	162.88	110.33	2295.35		
		回収量		4.90					6.30	26.00			12.50	8.70	29.50	87.90	3.83%
9	お茶の水女子大学	出荷量		65.90	24.60	24.60			32.30	12.30	44.60	12.30	12.30	46.60	275.50		
		回収量		10.40		13.71			16.10				9.65			49.86	18.10%
10	香川大学	出荷量		20.00	32.84	40.00	12.84		23.90	108.40	99.90	56.40		39.20	19.60	453.08	
		回収量							9.80	15.70				24.90		50.40	11.12%
11	鹿児島大学	出荷量												10.32	10.32		
		回収量														0.00	0.00%
12	関西学院大学	出荷量								192.80	132.80	132.80			458.40		
		回収量												110.90		110.90	24.19%
13	群馬大学	出荷量	39.20	139.24	236.82	146.68	207.84	12.84	41.90	135.70	129.20	125.80	109.60	53.62	1378.44		
		回収量				68.27	26.28	22.78		6.68	49.60	53.62		5.53	232.76	16.89%	
14	廣徳義塾大学	出荷量	45.68	432.32	240.16	271.12	97.04	25.68	64.20	325.40	1134.20	141.20	115.56	25.68	2918.24		
		回収量		8.50	43.50	41.50	43.31		21.00	21.00		18.50		9.00	206.31	7.07%	
15	高知大学	出荷量							32.40		25.80		12.84	12.84	83.88		
		回収量													0.00	0.00%	
16	神戸薬科大学	出荷量			32.84										32.84		
		回収量													0.00	0.00%	
17	甲南大学	出荷量	205.41	300.60	170.34	141.66	107.18		172.20	159.60	379.10	256.80			1892.89		
		回収量		43.47		163.86	61.60	44.22	24.17	33.68	131.36	105.73		41.43	9.15	658.67	34.80%
18	国学院大学	出荷量		85.11	13.68	21.00	21.00		15.40	13.70	50.00				240.89		
		回収量													0.00	0.00%	
19	埼玉大学	出荷量	160.00	208.00	204.80	208.00	104.00		53.60	188.00	194.40	100.80	154.40	33.60	1609.60		
		回収量				77.69	23.87	5.58				19.43	4.85	27.22	158.64	9.86%	

甲南大学の緑と甲南生のマナーについて

御船 慶美、山口 佳奈、山下 尚子、渡部 仁美 【哲学思想基礎論 受講生】

1、はじめに

私たちは、このシンポジウムをきっかけに、甲南大学の環境における良い点・悪い点を自分の目を通して感じることができました。また、影で甲南大学の環境を支えてくださっている職員の方々についても、初めて知ることがたくさんありました。

甲南大学の環境において、良い点をもっと知り、悪い点を自分たちで改善していく、という環境に対して目を向けるきっかけになればよいと思います。

2、甲南大学の緑について

甲南大学のキャンパスやグラウンドには植物がたくさん植えられており、花壇、ビオトープ、散策の道、のように緑がたくさんあります。この緑を手入れし、きれいにしてくれているのは、対馬造園の職員さんたちです。緑が多く、憩いの場が多いことは甲南大学の特徴でもあります。

しかし、よく見るとビオトープの周りの芝生が枯れていたり、花壇や噴水にごみや煙草が捨てられているのが目につきます。芝生が枯れてしまう原因として、芝生の中に踏み込む、グラウンドで禁止されている野球やサッカーなど、硬いボールを使った遊びをしていることなどがあげられます。甲南生の自覚をもって、自主的に甲南の緑を守っていくことが大切です。



ビオトープ



散策の道（緑風の小径）



散策の道（精神の庭）



花壇

3、甲南生のマナーについて

今年の4月から、キャンパス全面禁煙になりました。キャンパス内全面禁煙の看板もあらゆる所に設置されています。しかし、キャンパス内には煙草の吸殻がたくさん捨てられています。皆さんもよく目につくと思います。守衛室にいらっしゃる松原さんにお話を聞いたところ、吸殻が特に気になるのは正門前、10号館裏、6号館の外の階段、生協前の階段、学生会館だそうです。喫煙をなくすことはできないと思うので、場所やマナーを守っていく意識をもつべきだと思います。また、ごみのポイ捨てでも気になります。パンの袋やペットボトル、リサイクルできる紙コップまでもがポイ捨てされています。環境に対する一人ひとりの自覚が必要です。

甲南大学を清掃してくださっている業者が、現在、関西明装・エイコーサービスの二社です。業者の方々

は分担して、早い人は朝の5時から、遅い人は夕方4時まで甲南大学を清掃してくださっています。



キャンパス内全面禁煙の看板



学生会館の所のゴミ



煙草の吸殻と煙草の箱のごみ



リサイクルされずゴミになった紙コップ



煙草の吸殻



緑の中に投げ入れられたゴミ



ビオトープに捨てられたゴミ



芝生立ち入り禁止の看板

4、まとめ

今回紹介した良い点・悪い点は、甲南大学のほんの一部です。これから四年間過ごしていく中で、もっと良い点が見つかると思いますし、見えづらい悪い点もあると思います。ごみや煙草のポイ捨ての実態について目をそむけがちですが、まず自分から環境に対する意識の持ち方を変えて、少しずつでも環境に優しくなれたらいいと思います。

また、キャンパス内の緑や癒しの場を、ずっと守っていけるように、甲南生としてマナーを守っていくことが大切だと思いました。

甲南大学における持続可能な循環型キャンパスの実現を目指して

- 甲南人の環境意識の向上を目指して -

山本朋愛、八木朋美（文学部人間科学科 谷口ゼミナール）

主旨・目的

谷口ゼミでは2001年度から継続して、「甲南大学における循環型コミュニティの創造」をテーマとして、活動を行ってきました。学内においてはゴミの4分別化、摂津祭におけるリサイクル活動、環境啓発シンポジウム（計5回）の開催などを行ないました。学外においては、甲南大学環境教育野外施設（広野）での自給自足生活の体験学習や野菜・米作り、また学生レベルの国際パートナーシップの構築などを行ってきました。

そこで今年度は、「持続可能な循環型キャンパスの実現 甲南大学における環境意識の向上」をテーマとし、前年度のISO認証取得に向けての勉強会を踏まえた上で、近い将来におけるISO認証取得へのステップとして、「神戸環境マネジメントシステム」（以下KEMS）認証取得を目指した活動を中心に、環境意識の向上を通じた甲南大学における持続可能な循環型キャンパスの実現を目的としました。そのために「学内の環境意識の向上を目指したKEMSの認証取得」、「甲南大学本校舎及び環境教育野外施設（広野）における環境教育活動の継続的な推進」、「甲南大学を中心とした環境教育ネットワーク構築のサポート」の3つのプランを柱として活動を行なっていきます。

プラン : 学内の環境意識の向上を目指したKEMSの認証取得

KEMSとは、「こうべ環境フォーラム」により創設された第三者による客観的な認証制度です。KEMSでは、ISO14000シリーズ（国際標準化機構による環境マネジメントシステムの認証制度）と同じようにPDCAサイクルという環境マネジメント管理を行ないます。

P（Plan）で自ら環境方針および計画を立て、D（Do）で実施および運用を行ないます。C（Check）で計画と活動が結びつくかを自ら点検および評価し、A（Act）で管理部門による見直しを行ないます。そして、次年度の段階のPlanへと、らせん状のサイクルを描くように継続的發展を推進する仕組みです。

KEMSを認証取得する効果としては、省資源・省エネルギーの推進、甲南人の環境意識の向上、環境活動の普及・発展、環境教育カリキュラムの充実が見込めます。

（1）環境啓発シンポジウム参加組織とのパートナーシップの強化

KEMS実行委員会の設置

2002年度から行ってきた「環境啓発シンポジウム」は、学生部・財務部・生活協同組合・関西明装・神戸エイコーサービス・対馬造園店、学生それぞれの立場から、学内におけるゴミの4分別化実施の経験を共有する場として開催されました。そのシンポジウムに賛同・協力していただいた学内の管理・運営に携わる6つの組織と谷口ゼミでKEMSの認証取得を目指した実行委員会を設置します。

谷口ゼミは環境会議による組織同士のコーディネーター役、及び広報を通じての一般学生との橋渡し役、さらに実際のKEMS認証取得に向けた書類作成などを行なっています。

(2) 6 組織とのパートナーシップによる K E M S 認証取得

K E M S 認証取得に向けて各組織とのパートナーシップの強化を図り、実行委員会の組織作りを行ないます。甲南大学生協北館と甲南大学 1, 2, 3, 5, 8, 9, 10 号館における認証取得をする予定です。この K E M S 認証取得は今後、学内全体での取得の第一歩だと考えています。段階的に取得することによって結果的に、I S O 認証取得にゆりやかに接続できると考えています。

現在は、生協北館の K E M S 認証取得を目指し、環境影響評価の調査を行なっています。

9 月 29 日(金)の K E M S 勉強会では、生協の長谷川氏、I S O コンサルタントの大野氏を迎えて、環境マネジメントに取り組むにあたっての具体的なアドバイスを頂き、環境改善計画の設定及び実施について勉強しました。

(3) 学生・教職員への環境意識向上のための広報活動

甲南大学生協と協力して一般学生・教職員に対しての広報活動を行ないます。生協と協力して作成する「情報パック」での情宣や、環境啓発シンポジウムなどの広報活動の成果を検証するためのアンケートを前期と後期に行ないます。このアンケートは K E M S のチェックリスト法や環境法規制適用調査表を参考にしています。

7 月 12 日(水)・13 日(木)に文学部人間科学科専門科目「哲学思想基礎論」、「環境学基礎論」にて 210 名に環境意識調査としてアンケートを実施しました。今回のアンケートは昨年度のアンケートの結果との比較もかねた環境意識・行動に関する質問と、学内完全禁煙に際して喫煙に関する質問を行ないました。今回の調査結果を今後の広報活動に活かし、後期にとるアンケートとの比較により、環境意識の変化を調査する予定です。

プラン : 甲南大学本校舎及び環境教育野外施設(広野)における

環境教育活動の継続的な推進

(1) 循環型コミュニティの実践 4 R の推進

4 R とは、RECYCLE(再利用)・REUSE(再使用)・REDUCE(減量)・REFUSE(拒否)を指す言葉で、これらを実践・推進することで循環型コミュニティの実現に一步近づくことができると考えています。谷口ゼミ生を中心として 4 R の推進活動を行ないます。

まず、生ゴミの RECYCLE(再利用) REUSE(再使用)としてミミズコンポストを使用します。昨年度は 150.5 k g の生ゴミを処理できました。今年度も継続して生ゴミの処理を行っています。

次に、REDUCE(減量)としては、昨年度まで継続しているエコクッキングのデータ収集と、レシピ集の作成、摂津祭での配布を行ないました。エコクッキングのエコとは、「エコノミー(経済的)」で「エコロジー(環境に配慮している)」という両方の意味を表わしています。REFUSE(拒否)としては、エコバッグ利用の推進活動に協力しました。

(2) 伝統的農法による野菜・米作りを通じた環境教育活動

無農薬有機農法での農作業体験や野菜・米の成長、他の生物との関わりを観察することで、食べ物の安全性や保存の方法について学びます。手作業での田植え・稲刈り・脱穀といった日本の伝統的な耕作方法を通して、日本の伝統文化やライフスタイルについて考えます。1年を通して野菜・米作りを行なうことで、広野の自然のリズムを体験し、自然な生活のリズムや季節の旬の味やその風土を実感します。

環境教育の実践では、甲南小・中・高・大学生、女子中・高・大を結び、16年一貫教育をサポート、また高大連携として県立尼崎北高校、六甲アイランド高校へのフィールド・サポートも行ないました。

野菜作り

甲南大学環境教育野外施設の体験学習フィールド及び田んぼにおいて1年を通じて野菜・米作りを行なっています。無農薬による有機農法を実践しパーマカルチュア【Permanent（永続的な）+ Agriculture（農業）】の実現を目指しています。

今年度は5月13日に夏野菜とサツマイモの苗植えを甲南大学の広域副専攻・環境学コース科目「環境教育の実践」の受講生とともに行ないました。夏野菜はピーマン、ナス、キュウリ、トマト、プチトマト、カボチャ、ニガウリ、トウモロコシ、オクラ、シシトウを植えました。サツマイモはベニアズマ（一般的なサツマイモ）の苗を800本植えました。7月8日に夏野菜を収穫し、10月7日に芋掘りを行ないました。収穫した野菜はその場で焼いていただきました。

米作り

私たちは毎年、甲南大学環境教育野外施設の田んぼにおいて、もち米を育てています。米作りは、苗床作りに始まり、苗代作り、もみまき、田植え、稲刈り、脱穀、収穫祭（もちつき）という手順ですべてを手作業で行ないます。米作りは甲南小学校・高等学校の生徒、甲南女子中学・高等学校の生徒、甲南大学の広域副専攻・環境学コース科目「環境教育の実践」、教職科目「総合演習」の受講生とともに行っています。今年度は天候に恵まれなかったためか、昨年度より少ない約240kgの米が採れました。

住吉川環境学習

今年で7回目となる「住吉川環境学習」が、9月23日に甲南小学校・住吉川（神戸市）において行なわれました。甲南小学校4年生60名、甲南中高生25名、甲南女子高校生26名、甲南大学生・院生18名、各校の教員22名が参加しました。午前中に全員でゴミ拾いをした後、「生き物調べ班」、「自然を詠む・描く班」、「水質調査班」、「ゴミ調べ班」の4班に分かれて活動しました。身近な環境について学べるだけでなく、異年齢集団でのコミュニケーションの取り方についても考えることができました。

（3）自給自足生活の体験学習 循環型コミュニティの原型の体験

今年度で4回目になる自給自足の体験学習は、7月30日（日）から8月3日（木）まで、4泊5日で広野において行ないました。

自給自足生活の体験学習とは、循環型コミュニティの原型を体験し、現代の生活にどれだけ無駄が多いかを実感すると同時に、日の出と日の入りといった自然のリズムを身に刻むことによって、現代

のライフスタイルを見直します。それらを体験学習後の生活に持ち帰ることで、実生活にも無駄を無くすことができ、学生たちの環境意識の向上にも役立てることができると考えました。

体験学習中は、携帯電話や時計などを使用せず、必要最低限の持ち物で生活をします。食事は、広野の畑で収穫した野菜と、昨年度田んぼで収穫したもち米を用いました。自給自足生活の前に、広野で収穫した野菜を使用して作った保存食を、昨年度よりも種類を増やして持ち込むことや、野菜ともち米と一緒に炊き込むことで昨年よりも食事の種類が豊富になりました。飲料水は昨年度と同様に水道水を煮沸したものと、今年度からの取り組みとして雨水をろ過した水を使用しました。生活用水・飲料水は使用するごとに記録をつけることで節水を心がけるようにしました。今年度は、昨年度よりも気温が低いこともあり、飲料水の使用量は減少していました。さらに、自給自足生活が始まる1週間前より雨水を溜めていたので飲料水を昨年度より節水することができました。住居は昨年度よりも生活スペースを拡大するとともに、強度を高めることを目標に作成した結果、昨年度よりも多くの人数で生活することができました。

自給自足生活の開始直後は日常の生活リズムでしたが、丸一日過ごす朝は日の出とともに起床し、夜は日の入りとともに睡眠する自然の生活リズムにかわりました。参加者全員で話し合いをする機会を作り、環境問題を考えるとともに人間関係のあり方についても考え直すことができました。

プラン : 甲南大学を中心とした環境教育ネットワーク構築のサポート

(1) 「あいな里山公園」(国営明石海峡公園神戸地区)における環境ボランティア

「あいな里山公園」は、今後の学校教育における環境教育の実践の場となることが期待されています。昨年度から、「あいな里山公園」に環境ボランティアとして、有機農業の本来の姿である、冬期湛水や不耕起栽培を行なう不耕起農業に参加しています。不耕起農業とは、水田を耕さないまま農作物を栽培する農法です。

不耕起農業を始めて1年目の田んぼと2年目の田んぼを比較すると、2年目の田んぼは土がより粘土質であり、カエル、クモ、アメンボなどの生物が1年目の田んぼに比べて多く生息していました。まさに、自然のピオトープであることを実感しました。

今年度は残念ながらイノシシの被害にあってしまい、ほとんど収穫することができませんでした。今後はイノシシ対策など、里山としての自然との共生をいかに実現するかが課題となっています。

(2) 甲南大学での「地域社会への貢献プログラム」への参加

甲南大学では、「地域社会への貢献プログラム」の一環として、文学部を中心に学生も参加した新しいプロジェクトを立ち上げました。阪神淡路大震災からの11年、甲南大学が「阪神文化圏」にあることの意味を考え、それを「教育プログラム」として活かし、地域の再生・創生に貢献するフォーラムが企画されました。今年度より谷口ゼミもこの企画に参加しています。

「あいな里山公園」における環境教育ボランティア活動で、「あいな里山」復興のために、地元の人々に文化・伝承・地域環境をヒアリングして、そのデータをアーカイブ化する為の聞き取り調査を開始しています。事前調査と勉強を兼ねて、藍那公民館において行なわれた神戸大学研究員の森田氏による藍那村の歴史についての講演会にも参加しました。

(3) 国内外との環境教育ネットワーク

TV 会議システムを通じて、国外(タイ・マレーシア・カナダ・中国・オーストラリア)との「国

際学生会議」を行ない、異文化交流と環境教育についてお互いの知識を深め、自然環境、環境問題に対する取り組みを学ぶと同時に、グローバルな視野を身につけることを目指しています。

今年度に新設された「国内・国際環境教育ネットワーク」の技術的・人的なサポートを行ないます。この活動は、今後の国際理解や学生会議のための勉強になり、グローバルな視点を身につけることで、ローカルな環境意識の向上や環境推進活動に役立てていきたいと考えています。

8月16日(月)から21日(木)にかけてタイ・バンコクにて開催された第五回国際保健医療行動科学会議「健康と環境をめぐる教育 - 統合医療と環境教育 - 」に参加し、その前後に現地でのエクスカージョン、エコツアーにも参加しました。この会議で行なった学生会議では、これまでに取り組んできた広野でのフィールド活動や校内での環境活動といったローカルなゼミ活動について発表を行ない、タイの学生らと情報を交換し合うことができました。

国際会議の翌日から行なわれたエコツアーでは、タイの特色ある豊かな自然を見学するために、クイブリ国立公園を訪れました。クイブリ国立公園では木の上に作られたアリの巣や、日本では見ることができない野鳥や草花を観察することができました。レンジャーの人たちの協力によって2日を費やして公園内の野性の象を観察する機会にも恵まれました。

編 集	甲南大学文学部人間科学科 谷口ゼミナール
協 力	財務部
発 行	甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室 〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1 甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室気付
	TEL/FAX : 078-435-2368 (直通) E-mail : fmiaki@konan-u.ac.jp
印 刷	財務部
発行日	2006年12月6日(水)

M E M O

M E M O